

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	生命工学・生命倫理と法政策	研究代表者名	樋口 範雄
-------	---------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：  
生命工学・生命倫理に関する学際的・国際的共同研究の緒につくことができた。ただし、法政策の具体的な提言・方向の提示が弱い。また、倫理に関する現代の問題状況を論じ、その上で生命倫理のあり方を検討する必要があったのではないか。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（ ） 十分に貢献できた
- イ（ ） 概ね貢献できた
- ウ（○） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：  
議論の素材を提供するという点で貢献があった。しかし具体的に議論の場を十分に提供したとはいえない。また、生命工学に関する「法政策」の基本的視点の整理が不十分である。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（ ） 概ね高く評価できる
- ウ（○） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：  
法政策の観点からは、未だ道半ばである。生命工学と生命倫理との相互関係について、議論のいっそうの深化が期待される。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア ( ) 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
研究成果は積極的に公表されている。学際的な研究であるだけに、成果をどのような場で発表していくかについても、十分な配慮が望まれる。

#### 4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
○	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

生命工学・生命倫理と法とにまたがる問題領域にメスが入られ、多岐多様な課題があることが明らかにされた。成果は種々の形で発表されており、この分野への学問的関心を高めるのに貢献してきた。

しかし、新たな学術分野の創成にまで至ったとは言いがたい。法政策について基本的視点を整理したうえで、より具体的な提言へと進めてほしい。また、各研究メンバーの貢献度に濃淡があった。チーム編成について反省すべき点があったように思われる。